

無歯顎症例から学ぶチーム医療 ～総義歯臨床の押さえどころ～

佐藤幸司

この度の生涯研修では、歯科技工士・歯科衛生士のダブルライセンス資格でご活躍の小林明子先生と西村好美先生のコラボ特別講演企画を楽しみにしております。

総務省の職業分類・産業分類による、歯科技工士、歯科衛生士の立ち位置と厚生労働省のコンプライアンスについて、皆様と共に考察してみたいと思っています。

そこで、我が国も超高齢化を迎え高齢者歯科医療も増加傾向にあります。また、歯科医療現場もデジタル機器の導入により、高度に発達した医療技術の進歩と共に無歯顎者の疾病構造も著しく変化し、義歯の質的需要が高度化して来ています。無歯顎症例の模型を客観的に観察し、個々の症例において基準となる咬合平面の設定基準と人工歯排列・咬合様式について講演させていただく予定です。

また、義歯製作も客観的な根拠から効率的な製作システムの供給体制が求められ義歯製作の大切な要素であります。具体的には、解剖学に基づいた適切な部位に人工歯排列を行い、筋組織と口腔内に調和した咬合と咬合様式を付与することが重要であります。臨床の要は、担当歯科医師の診査診断と治療計画を基に、歯科技工士・歯科衛生士も共有し、各ステップを慎重に進められることが重要と考えています。

第二部では、歯科技工士・歯科衛生士のあるべき姿について西村好美先生、小林明子先生に考察していただき、ディスカッションを交え時間の許す限り聴講して戴いた皆様と共に有意義な生涯研修になれば幸いです。

これから補綴治療・再治療の Big Wave が到来する

—口腔の健康改善・長期維持安定のための本物のチーム医療を求めて—

小林明子

私たちは新型コロナウイルス感染症のパンデミックから世界中が一瞬のうちに変わってしまうことを経験し、多くの学びを得ました。今や国民の健康への意識や関心はかつてないほどの高まりを見せています。今後 2026 年には高齢者率は 38%と予測され、多くの国民が 楽しい食事や健康に関心を寄せてきています。しかし、この団塊の世代以上の人々は実は、“補綴の洪水”と言われた 1970 年代に一斉に治療を受け、さらにこの時代は歯周治療、予防やメンテナンスはないまま、繰り返される再治療により歯を失い大型の補綴装置が装着されている状況です。おそらく全員が再治療を余儀なくされることは論を待ちません。今後、大量の補綴再治療、しかも複雑化された治療を目前として、これから歯科界はどのように立ち向かっていけばよいのでしょうか。『これから仕事なくなるのでは』と不安や心配の声を聞きますが、補綴治療の Big wave に突入することは間違いなく、歯科技工士減少の現実の中、むしろ誰がそれを担うのかと懸念せざるを得ません。しかし今後は CAD/CAM や IOS などデジタルテクノロジーが大きな手助けとなり、高度成長期の寝ずに数をこなす歯科技工士を行うような仕事はなくなるでしょう。むしろ、国民からは口腔機能、健康を支える精密な補綴装置の提供、高度な知識と技術を持つ歯科技工士、その人のために行う丁寧な医療が求められてきているのです。医療貢献を実感し歯科医療の専門職としてやりがいや誇りを見出すことができる、これが歯科技工士の醍醐味と考えています。

来年 4 月からは“健康日本 21”が第 3 期に突入し、人生 100 年時代を見据えこれからの歯科医療は、完結型主導の治療から、健康増進の医療へと確実にシフトしていきます。歯科衛生士には口腔の健康改善から長期維持安定を管理していくことが使命になり、そこに本物のチーム力が試されてくるわけです。私は W ライセンスとして歯科技工士、歯科衛生士それぞれの目線で臨床の現場にいますが、互いの違いや交わるところを理解し、また歯科技工士がなかなか知ることのできない患者の思いや治療後の口腔内の変化を歯科衛生士から情報提供してもらい共有することでこそ、新時代に向けて予後を見据えた本物のチーム医療を目指せると信じています。

日々臨床現場でご活躍される皆様に少しでも元気を感じていただけるディスカッションとなれたら幸いです。

「患者の笑顔」を追い求め

西村好美

近年、医療界や一般社会において、歯周病と全身の健康についての関連性に関心が集まっている。歯科界においても、歯周治療を行い、歯周病の感染と炎症のコントロールが行われることにより患者の口腔内から、全身の健康に与える影響について示唆されている。

歯科技工士として歯科医療現場で補綴治療を成功し、患者の口腔内の健康を回復するには審美性・機能性・生物学的恒常性・構造力学を考慮する必要がある。

さらに、補綴装置を製作するうえで「自然美・機能美・造形美・芸術美」という美の能力が重要であると考えられる。美と健康は密接に繋がっており、歯科技工士が「真の美とはなにか」を追求し、個々の症例に向き合うことで、更に患者の笑顔と健康へ繋がる。

今回は「患者の笑顔と健康」という視点から、最善の口元を創造するための要素と持続性を兼ね備えた補綴装置の考え方について述べたい。